

環境保全措置と予測への反映の有無

（1）準備書の章番号と項目

環境要素	章番号と項目
10.2.大気質	10.2.1.建設機械の稼働による窒素酸化物及び浮遊粒子状物質
	10.2.2.資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による窒素酸化物及び浮遊粒子状物質
	10.2.3.航空機の運航、飛行場の施設の供用による窒素酸化物及び浮遊粒子状物質
	10.2.4.飛行場を利用する車両のアクセス道路走行による窒素酸化物及び浮遊粒子状物質
	10.2.5.造成等の施工による一時的な影響及び建設機械の稼働による粉じん等
	10.2.6.資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による粉じん等
10.3.騒音	10.3.1.建設機械の稼働による建設作業騒音
	10.3.2.資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による道路交通騒音
	10.3.3.飛行場を利用する車両のアクセス道路走行による道路交通騒音
	10.3.4.航空機の運航による航空機騒音
	10.3.5.飛行場の施設の供用による空港内作業騒音
10.4.低周波音	10.4.1.航空機の運航による低周波音
10.5.振動	10.5.1.建設機械の稼働による建設作業振動
	10.5.2.資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による道路交通振動
	10.5.3.飛行場を利用する車両のアクセス道路走行による道路交通振動
10.6.水質	10.6.1.造成等の施工に伴う土砂による水の濁り
	10.6.2.飛行場の施設の供用による水の汚れ
10.7.水文環境	10.7.1.造成等の施工及び飛行場の存在による地下水位、水利用等
10.8.動物	10.8.1.造成等の施工による一時的な影響、飛行場の存在、航空機の運航及び飛行場の施設の供用に係る重要な種及び注目すべき生息地
10.9.植物	10.9.1.造成等の施工による一時的な影響、飛行場の存在及び飛行場の施設の供用に係る重要な種及び群落
10.10.生態系	10.10.1.造成等の施工による一時的な影響、飛行場の存在及び飛行場の施設の供用に係る地域を特徴づける生態系
10.11.景観	10.11.1.飛行場の存在による主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観
10.12.人と自然との触れ合いの活動の場	10.12.1.飛行場の存在及び航空機の運航による主要な人と自然との触れ合いの活動の場
10.13.廃棄物等	10.13.1.造成等の施工による建設工事に伴う副産物
	10.13.2.飛行場の施設の供用に伴う廃棄物
10.14.温室効果ガス等	10.14.1.工事の実施による温室効果ガス等
	10.14.2.航空機の運航及び飛行場の施設の供用による温室効果ガス等

(2) 環境保全措置の予測への反映

●工事中

準備書の章番号				環境保全措置の種類	予測への反映の有無	備考
10.2.1	10.14.1			排出ガス対策型建設機械の使用	○	
10.2.1	10.3.1	10.5.1	10.14.1	建設機械の整備・点検の徹底の促進	×	
10.2.1				高濃度発生時の作業中断・作業調整	×	
10.2.1	10.3.1	10.5.1	10.14.1	工事関係者に対する建設機械の稼働方法の指導	×	
10.2.2	10.3.2	10.5.2	10.14.1	資材等運搬車両の整備・点検の徹底の促進	×	
10.2.2	10.3.2	10.5.2	10.14.1	公共交通機関の利用及び乗合通勤の奨励	×	
10.2.2	10.3.2	10.5.2	10.14.1	工事関係者に対する資材等運搬車両の運行方法の指導	×	
10.2.2	10.3.2	10.5.2		主要な幹線道路の走行	○	
10.2.2	10.3.2	10.5.2		資材等運搬車両の走行台数の削減	○	
10.2.5				工事区域への散水	○	(※場内道路のみ)
10.2.5	10.3.1			仮囲いの設置	○	大気質、騒音の予測では施工区域の周囲に設置する仮囲いを見込んでいる。動物では営巣地付近の目隠しのため設置するが、その位置が未定のため見込んでいない。
10.8.1				工事区域の仮囲い	×	
10.2.5	10.6.1			造成面の早期緑化・転圧	×	
10.2.6				タイヤの洗浄	○	
10.2.6				路面への散水・清掃	×	
10.2.6				荷台のシート掛け	×	
10.3.1				低騒音型・超低騒音型建設機械の使用	○	
10.5.1				低振動型建設機械の使用	○	
10.6.1				仮設沈砂池の設置	○	
10.6.1				排水路の保護による土砂流入防止	×	
10.6.1				沈砂池の土砂の定期的な除去	○	
10.6.1				土嚢等による濁水外部浸出の防止	×	
10.6.1				濁水処理プラントの設置	×	
10.6.1				河川放流水の濁度モニタリング	×	
10.8.1				工事工程の調整	×	
10.8.1				工事中の騒音対策	×	
10.13.1				建設副産物の現場分別の徹底	×	
10.13.1				再資源化等率の高い中間処理施設への処理委託	×	
10.13.1				再生骨材としての再利用の推進	×	
10.13.1				建設発生木材の再資源化の推進	×	

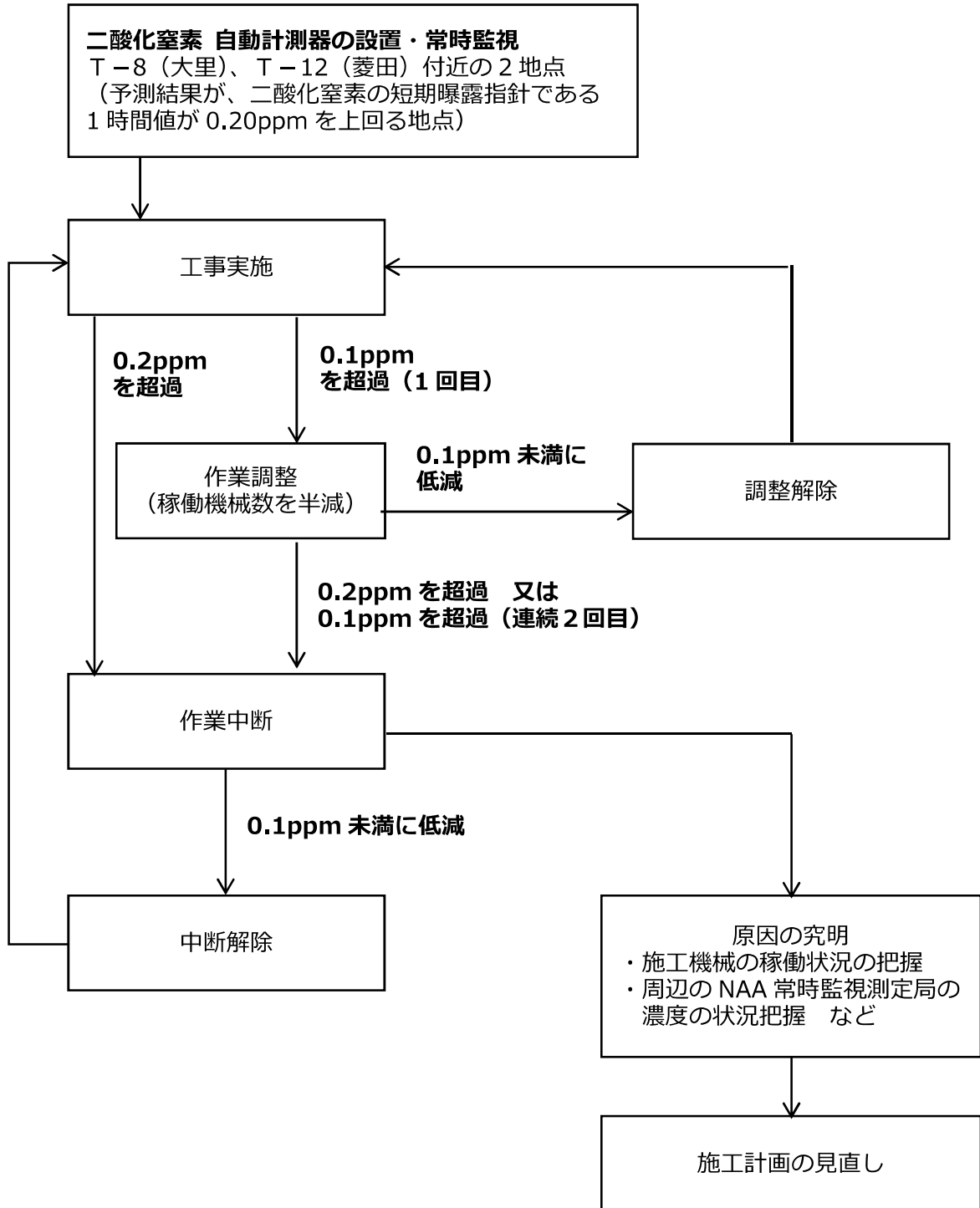
●供用時（その1）

準備書の章番号				環境保全措置の種類	予測への反映の有無	備考
10.2.3	10.14.2			低排出型（低燃費型）機材の運航促進	×	
10.2.3	10.14.2			航空機地上走行時間の短縮	×	
10.2.3	10.3.4	10.14.2		補助動力装置（APU）使用抑制及び地上動力装置（GPU）の使用促進	×	
10.2.3				空港関連施設における省エネの促進	×	
10.2.3	10.14.2			低公害車の導入促進	×	
10.2.4	10.3.3	10.5.3	10.14.2	エコドライブの促進	×	
10.2.4	10.3.3	10.5.3	10.14.2	公共交通機関の利用促進	×	
10.2.4	10.14.2			低公害車向けインフラ整備の推進による来港促進	×	
10.3.4	10.4.1	10.12		低騒音型航空機の導入促進	×	
10.3.4				飛行コース幅（監視区域）の設定と監視	○	
10.3.4	10.4.1			騒音軽減運航方式の継続	○	
10.3.4				スライド運用の導入	×	
10.3.4				夜間早朝における運航機材の制限	×	
10.3.4				エンジン試運転対策	○	
10.3.4	10.3.5			防音壁等の設置	○	
10.3.4				住宅の防音工事助成の実施	×	
10.3.4				学校、共同利用施設の防音工事助成の実施	×	
10.3.4				移転補償の実施	×	
10.3.5				空港内車両の制限速度の遵守	×	
10.3.5				GSE 車両の整備・点検の徹底の要請	×	
10.3.5				GSE 車両運転者に対する GSE 車両の運行方法の教育・指導の要請	×	
10.4.1				建物のがたつき防止対策の検討	×	
10.6.2				防除氷剤の回収と処理	○	
10.6.2				常時監視の実施	×	
10.6.2				B 滑走路周辺への貯留池等の整備検討	×	
10.7.1				雨水浸透の励行	△	現況と同等の雨水の地下浸透量を見込んだ。なお透水性舗装は歩道等の施工可能な箇所に限定されるため△とした。
10.7.1			透水性舗装の適用			
10.7.1			芝地等の確保			
10.7.1			調整池底部の雨水浸透			
10.7.1			雨水排水の周辺河川への放流			
10.8.1	10.10.1			ホトケドジョウの生息環境保全	×	
10.8.1	10.9.1	10.10.1		谷津機能を維持した調整池の設置	×	
10.8.1	10.10.1			アクセス道路・補償道路における側溝の蓋がけや脱出スロープの設置	×	
10.8.1	10.9.1	10.10.1		谷津環境の整備・維持管理	×	
10.8.1	10.10.1			人工代替巣の設置	×	
10.8.1	10.10.1			巣箱の設置	×	
10.8.1	10.10.1			代替営巣林の整備	×	
10.8.1	10.10.1			コウモリボックスの設置	×	
10.8.1	10.9.1	10.10.1		改変区域外への個体の移設	×	
10.8.1				生息域外保全	×	

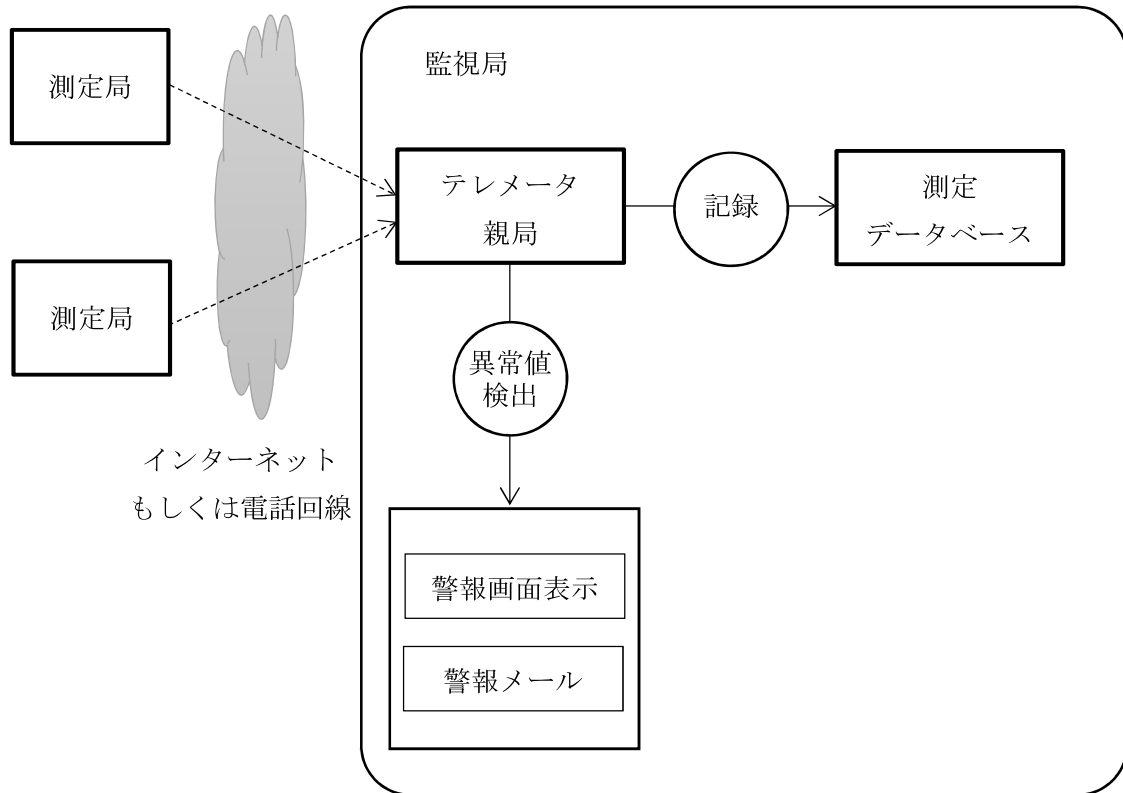
●供用時（その2）

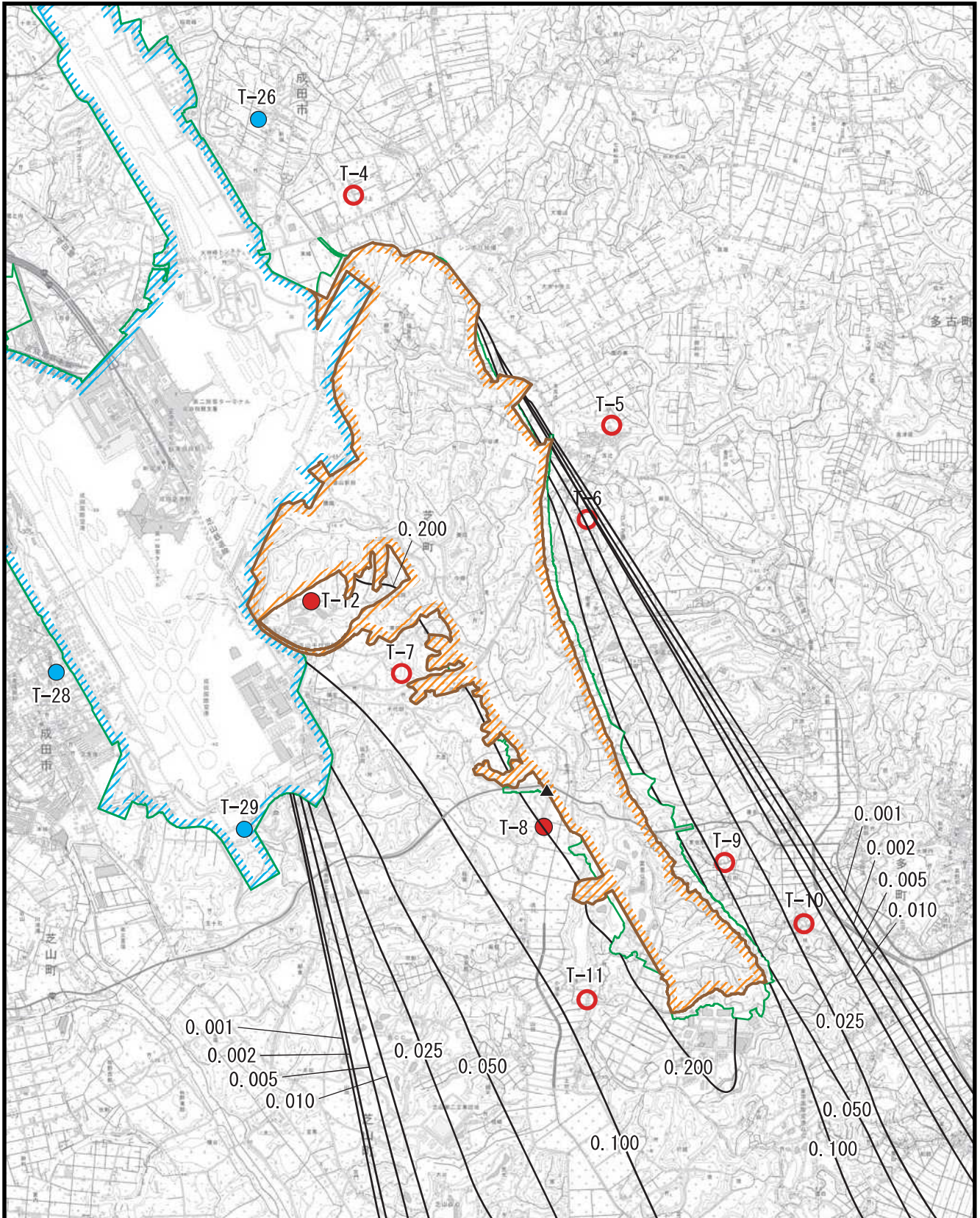
準備書の章番号			環境保全措置の種類	予測への反映の有無	備考
10.8.1	10.12		法面の草本緑化	×	「景観」ではフォトモンタージュ作成において見込んだが、「動物」「人と自然との触れ合いの活動の場」では緑化植物や工法などの詳細が未定であるため、見込んでいない。
10.11			法面の草本緑化	○	
10.8.1	10.9.1	10.10.1	防音堤の木本緑化	×	「景観」ではフォトモンタージュ作成において見込んだが、「動物」「植物」「生態系」では緑化植物や工法などの詳細が未定であるため、見込んでいない。
10.11			防音堤の木本緑化	○	
10.9.1			下流水路からの個体の移植	×	
10.12			既存施設の整備、活用の推進	×	
10.12			類似施設の新設	×	
10.13.2			空港関連施設における一般廃棄物の分別	×	
10.13.2			ペーパーレス化による発生量の抑制及び使用済み用紙のリサイクルの推進	×	
10.13.2			航空機からの取り下ろし廃棄物の分類の促進	×	
10.13.2			一般廃棄物の適正な処理	○	
10.13.2			刈草や伐採木等の有効活用の推進	×	
10.13.2			舗装改修工事における建設廃材の発生抑制	×	
10.13.2			舗装改修工事における建設廃材の再資源化	○	
10.13.2			産業廃棄物（梱包材、木製スキッド）のリサイクルの促進	×	
10.13.2			空港利用者に対する意識啓発活動の実施	×	
10.13.2			グリーン購入の推進	×	
10.14.2			次世代航空機燃料導入に向けた取組みの推進	×	
10.14.2			再生可能エネルギーの導入促進	×	
10.14.2			LED 照明の導入	×	
10.14.2			誘導路への LED 灯火の導入	×	
10.14.2			空調・電力・熱源等の効率運用	×	
10.14.2			低炭素電源の選択	×	
10.14.2			サーマルリサイクルの実施	×	
10.14.2			CGS の段階的な更新	×	
10.14.2			新築建築物の ZEB 化の検討	×	
10.14.2			既存建築物の省エネ改修	×	
10.14.2			省エネルギー活動の実施	×	
10.14.2			空港カーボン認証（Airport Carbon Accreditation）のプログラムの活用	×	

大気質高濃度発生時の作業調整・作業中断の考え方(案)



## 二酸化窒素 常時監視システム（イメージ図）





凡 例

- 空港区域
- 新たに空港となる区域
- 対象事業実施区域
- - - 市町村界

※空港区域には、今後拡張を予定している区域も含む。

添付図 事後調査地点（建設機械の稼働に伴う二酸化窒素（寄与濃度）の予測結果 1時間値（C区域））

- 予測地点（現地調査地点）
  - 事後調査地点（T-8, T-12）
  - ▲ 最大値（0.3927ppm）
  - 工事区域
  - NAA常時測定局
- （単位：ppm）

※準備書本編P10.2.1-57に基づく



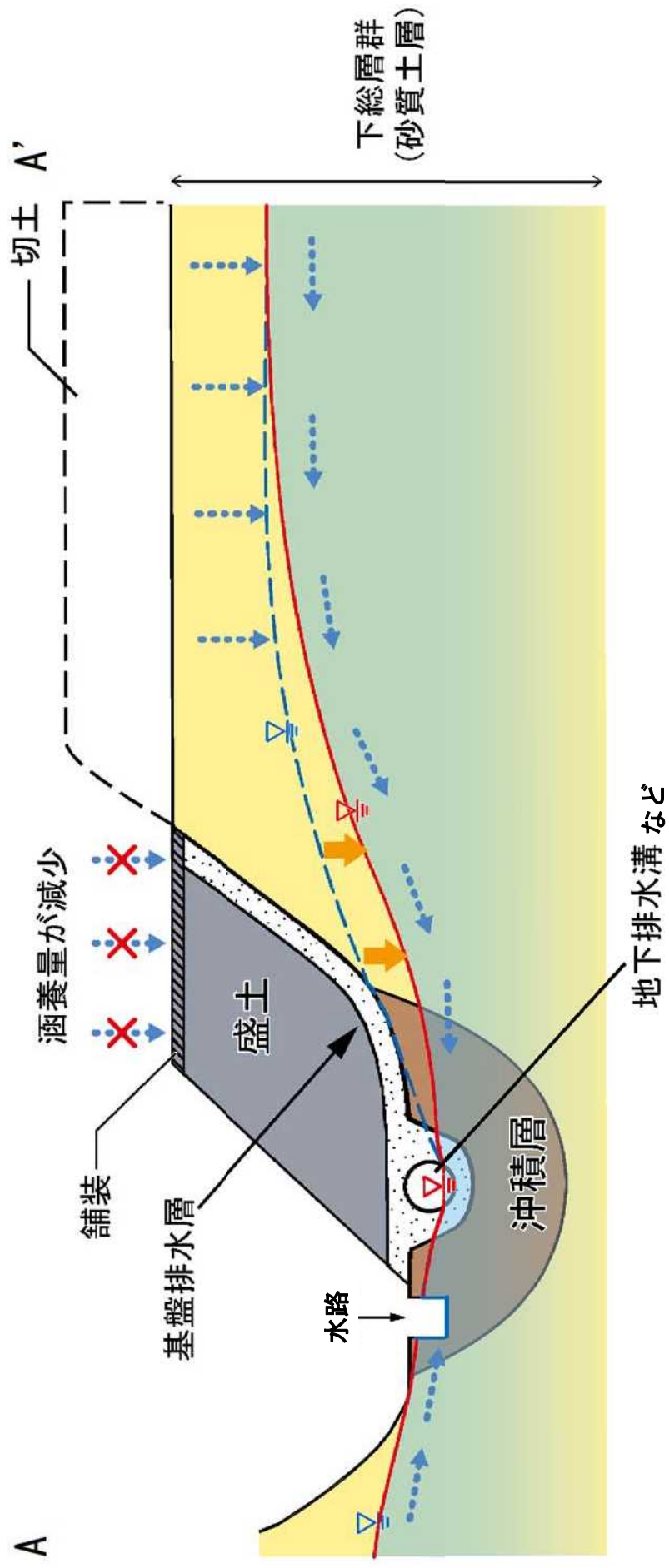


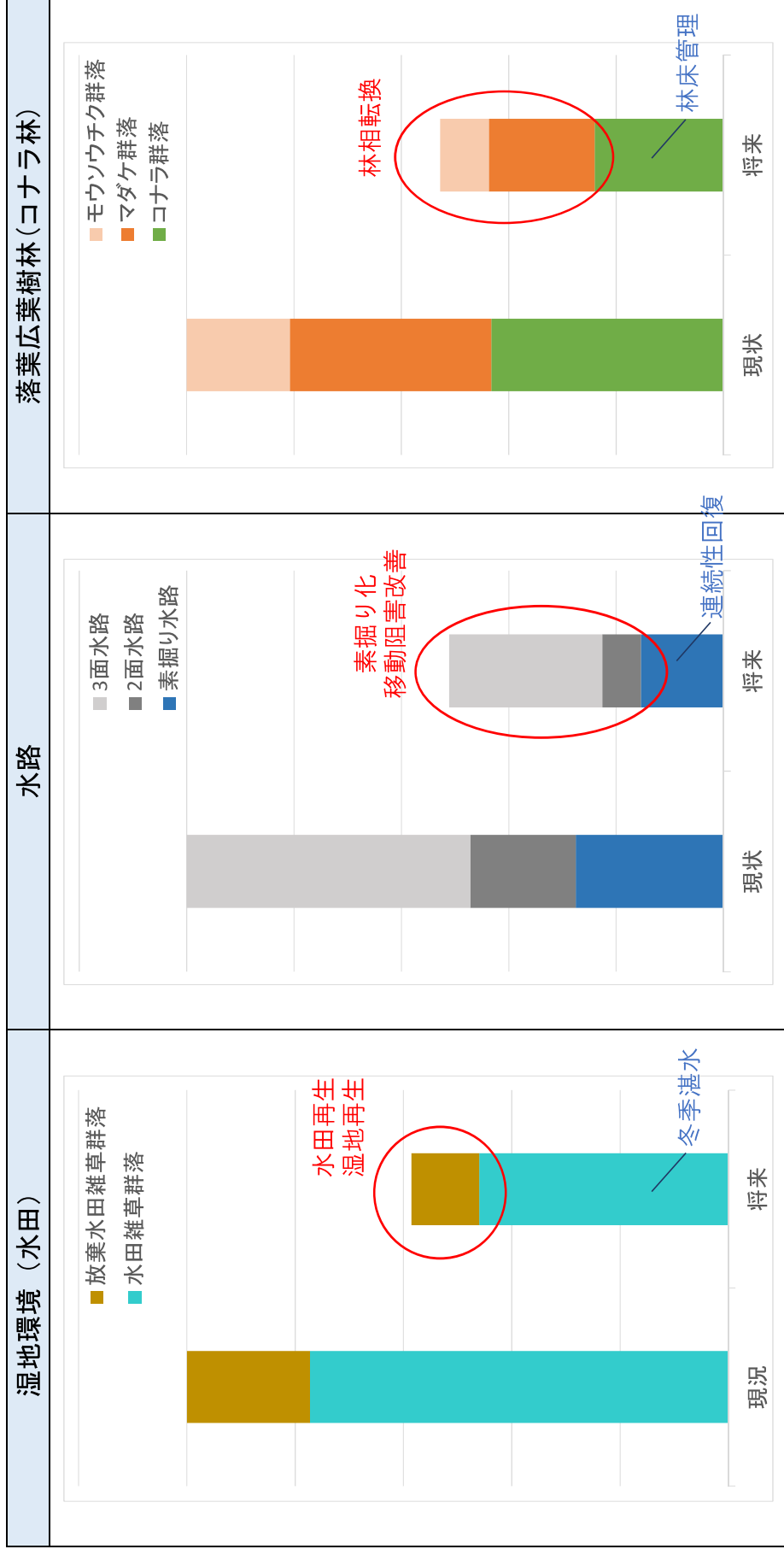
図 地下水排水のモデル化のイメージ



表 谷津環境の整備・維持管理（里山再生）に係る定量的評価のイメージ

指標種例	評価対象		整備・維持管理	評価イメージ
サシバ	繁殖環境 (営巣環境 +採餌環境)	<ul style="list-style-type: none"> <li>針葉樹大径木の有無</li> <li>斜面林面積</li> <li>耕作水田面積</li> <li>素掘り水路の延長</li> </ul>	放棄水田の再生、素掘り水路の再生、スギ林の管理、竹林の林相転換等	<p>評価のイメージ</p>
キンラン	生育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>落葉広葉樹林の面積</li> <li>草本層、低木層の被度</li> </ul>	落葉広葉樹林の林床管理、竹林の林相転換等	

参考) 環境保全措置の検討にあたって着目した調査範囲の環境 (保全のポテンシャル)



環境保全措置と予測への反映の有無

（1）環境保全措置の予測への反映と検討経緯の区分

環境保全措置の予測への反映については、次ページ以降にお示しするとおりです。

以下の区分で整理を行いました。

A. 計画段階に検討した措置	
A-1	○ 現状を上回る程度 of 取組を実施するものとして、予測条件に反映した措置
A-2	△ 現状と同程度 of 取組を実施するものとして、予測条件に反映した措置 (現状を上回る程度 of 取組までは見込んでいない)
A-3	× 定量化が難しいため、予測に見込んでいない措置
B. 準備書の検討過程において、予測結果を踏まえて追加で検討した措置	
B-1	○ 現状を上回る程度 of 取組を実施するものとして、予測条件に反映した措置
B-3	× 定量化が難しいため、予測に見込んでいない措置

（2）準備書の章番号と項目

次ページ以降では、スペースの都合から、以下に示す章番号のみを掲載しました。

環境要素	章番号と項目
10.2.大気質	10.2.1. 建設機械の稼働による窒素酸化物及び浮遊粒子状物質
	10.2.2. 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による窒素酸化物及び浮遊粒子状物質
	10.2.3. 航空機の運航、飛行場の施設の供用による窒素酸化物及び浮遊粒子状物質
	10.2.4. 飛行場を利用する車両のアクセス道路走行による窒素酸化物及び浮遊粒子状物質
	10.2.5. 造成等の施工による一時的な影響及び建設機械の稼働による粉じん等
	10.2.6. 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による粉じん等
10.3.騒音	10.3.1. 建設機械の稼働による建設作業騒音
	10.3.2. 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による道路交通騒音
	10.3.3. 飛行場を利用する車両のアクセス道路走行による道路交通騒音
	10.3.4. 航空機の運航による航空機騒音
	10.3.5. 飛行場の施設の供用による空港内作業騒音
10.4.低周波音	10.4.1. 航空機の運航による低周波音
10.5.振動	10.5.1. 建設機械の稼働による建設作業振動
	10.5.2. 資材及び機械の運搬に用いる車両の運行による道路交通振動
	10.5.3. 飛行場を利用する車両のアクセス道路走行による道路交通振動
10.6.水質	10.6.1. 造成等の施工に伴う土砂による水の濁り
	10.6.2. 飛行場の施設の供用による水の汚れ
10.7.水文環境	10.7.1. 造成等の施工及び飛行場の存在による地下水位、水利用等
10.8.動物	10.8.1. 造成等の施工による一時的な影響、飛行場の存在、航空機の運航及び飛行場の施設の供用に係る重要な種及び注目すべき生息地
10.9.植物	10.9.1. 造成等の施工による一時的な影響、飛行場の存在及び飛行場の施設の供用に係る重要な種及び群落
10.10.生態系	10.10.1. 造成等の施工による一時的な影響、飛行場の存在及び飛行場の施設の供用に係る地域を特徴づける生態系
10.11.景観	10.11.1. 飛行場の存在による主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観
10.12.人と自然との触れ合いの活動の場	10.12.1. 飛行場の存在及び航空機の運航による主要な人と自然との触れ合いの活動の場
10.13.廃棄物等	10.13.1. 造成等の施工による建設工事に伴う副産物
	10.13.2. 飛行場の施設の供用に伴う廃棄物
10.14.温室効果ガス等	10.14.1. 工事の実施による温室効果ガス等
	10.14.2. 航空機の運航及び飛行場の施設の供用による温室効果ガス等

(3) 環境保全措置の予測への反映

●工事中 (その1)

準備書の章番号				環境保全措置の種類	予測への反映の有無	検討経緯					備考	
						A1	A2	A3	B1	B3		
10.2.1	10.14.1			排出ガス対策型建設機械の使用	○	●						排出ガス対策型の排出係数を使用。
10.2.1	10.3.1	10.5.1	10.14.1	建設機械の整備・点検の徹底の促進	×		●					
10.2.1				高濃度発生時の作業中断・作業調整	×					●		
10.2.1	10.3.1	10.5.1	10.14.1	工事関係者に対する建設機械の稼働方法の指導	×			●				
10.2.2	10.3.2	10.5.2	10.14.1	資材等運搬車両の整備・点検の徹底の促進	×			●				
10.2.2	10.3.2	10.5.2	10.14.1	公共交通機関の利用及び乗合通勤の奨励	×			●				
10.2.2	10.3.2	10.5.2	10.14.1	工事関係者に対する資材等運搬車両の運行方法の指導	×			●				
10.2.2	10.3.2	10.5.2		主要な幹線道路の走行	○	●						資材等運搬車両の走行ルートとして見込んだ
10.2.2	10.3.2	10.5.2		資材等運搬車両の走行台数の削減	○	●						土砂運搬に用いるダンプトラックを場内常駐させることを想定
10.2.5				工事区域への散水	○	●						施工区域内の工事用道路は、散水する場合の係数を使用（粉じん等）
10.2.5	10.3.1			仮囲いの設置＜大気質、騒音＞	○	●						仮囲いによる煙源位置（大気質）、回折減衰（騒音）を考慮
10.8.1				工事区域の仮囲い＜動物＞	×			●				大気質、騒音の予測では施工区域の周囲に設置する仮囲いを見込んでいる。動物では営巣地付近の目隠しのため設置するが、その位置が未定のため見込んでいない。
10.2.5	10.6.1			造成面の早期緑化・転圧	×			●				
10.2.6				タイヤの洗浄	○	●						タイヤ洗浄をする場合の係数を使用（粉じん等）
10.2.6				路面への散水・清掃	×			●				
10.2.6				荷台のシート掛け	×			●				

●工事中（その2）

準備書の章番号	環境保全措置の種類	予測への反映の有無	検討経緯					備考
			A1	A2	A3	B1	B3	
10.3.1	低騒音型・超低騒音型建設機械の使用	○	●					低騒音型建設機械の音響PWLを使用
10.5.1	低振動型建設機械の使用	○	●					低振動型建設機械の基準点振動レベルを使用
10.6.1	仮設沈砂池の設置	○	●					仮設沈砂池による土砂の沈降を見込んだ
10.6.1	排水路の保護による土砂流入防止	×			●			
10.6.1	沈砂池の土砂の定期的な除去	○	●					年1回以上の浚渫を前提に予測（仮設沈砂池の容量は、1年間分の堆砂量を考慮）
10.6.1	土嚢等による濁水外部浸出の防止	×			●			
10.6.1	濁水処理プラントの設置	×					●	
10.6.1	河川放流水の濁度モニタリング	×			●			
10.8.1	工事工程の調整	×			●			
10.8.1	工事中の騒音対策	×			●			
10.13.1	建設副産物の現場分別の徹底	×			●			
10.13.1	再資源化等率の高い中間処理施設への処理委託	○					●	千葉県目標値と同等の再資源化等率を達成するため、予測結果に見込んでいる。
10.13.1	再生骨材としての再利用の推進	×			●			
10.13.1	建設発生木材の再資源化の推進	×			●			

●供用時（その1）

準備書の章番号				環境保全措置の種類	予測への反映の有無	検討経緯					備考
						A1	A2	A3	B1	B3	
10.2.3	10.14.2			低排出型（低燃費型）機材の運航促進	○	●					仮想ダイヤにおいて機材を設定
10.2.3	10.14.2			航空機地上走行時間の短縮	○	●					計画段階で滑走路配置の検討を行う中で、より地上走行距離が短い案を採用
10.2.3	10.3.4	10.14.2		補助動力装置（APU）使用抑制及び地上動力装置（GPU）の使用促進	△		●				APU 平均稼働時間（GPU 設置済スポットも考慮した時間）の中で見込んだ
10.2.3				空港関連施設における省エネの促進	×			●			
10.2.3	10.14.2			低公害車の導入促進	×			●			
10.2.4	10.3.3	10.5.3	10.14.2	Eコドライブの促進	×			●			
10.2.4	10.3.3	10.5.3	10.14.2	公共交通機関の利用促進	×			●			
10.2.4	10.14.2			低公害車向けインフラ整備の推進による来港促進	×			●			
10.3.4	10.4.1	10.12		低騒音型航空機の導入促進	○	●					仮想ダイヤにおいて機材を設定
10.3.4				飛行コース幅（監視区域）の設定と監視	△		●				飛行コースは現状と同様に利根川から九十九里までは直進上昇・直進降下と設定
10.3.4	10.4.1			騒音軽減運航方式の継続	△		●				離陸角度は現状と同じと設定（機材毎に異なる）
10.3.4				スライド運用の導入	○	●					時間区分毎の発着回数の中で考慮
10.3.4				夜間早朝における運航機材の制限	○	●					仮想ダイヤにおいて機材を設定
10.3.4				エンジン試運転対策	○	●					NRH（ノイズリダクションハンガー）内での試運転実施を見込んだ
10.3.4	10.3.5			防音壁等の設置	○	●					防音壁の新設を見込んだ
10.3.4				住宅の防音工事助成の実施	×			●			
10.3.4				学校、共同利用施設の防音工事助成の実施	×			●			
10.3.4				移転補償の実施	×			●			
10.3.5				空港内車両の制限速度の遵守	△		●				現在と同等の音響パワーレベルを設定
10.3.5				GSE 車両の整備・点検の徹底の要請	×			●			
10.3.5				GSE 車両運転者に対する GSE 車両の運行方法の教育・指導の要請	×			●			
10.4.1				建物のがたつき防止対策の検討	×			●			

●供用時（その2）

準備書の章番号	環境保全措置の種類	予測への反映の有無	検討経緯					備考
			A1	A2	A3	B1	B3	
			○	△	×	○	×	
10.6.2	防除氷剤の回収と処理	○	●					防除氷剤処理施設の増設等により、現状と同等以上の処理の実施を見込んだ
10.6.2	常時監視の実施	×			●			
10.6.2	B 滑走路周辺への貯留池等の整備検討	×					●	
10.7.1	雨水浸透の励行	(○)				●		現況と同等の雨水の地下浸透量を見込んだ。なお透水性舗装は歩道等の施工可能な箇所に限定されるため(○)とした。
10.7.1	透水性舗装の適用					●		
10.7.1	芝地等の確保		●					
10.7.1	調整池底部の雨水浸透		●					
10.7.1	雨水排水の周辺河川への放流	×			●			
10.8.1	10.10.1	ホトケドジョウの生息環境保全	×				●	
10.8.1	10.9.1	10.10.1	谷津機能を維持した調整池の設置	×			●	
10.8.1	10.10.1	アクセス道路・補償道路における側溝の蓋がけや脱出スロープの設置	×				●	
10.8.1	10.9.1	10.10.1	谷津環境の整備・維持管理	×			●	
10.8.1	10.10.1	人工代替巣の設置	×				●	
10.8.1	10.10.1	巣箱の設置	×				●	
10.8.1	10.10.1	代替営巣林の整備	×				●	
10.8.1	10.10.1	コウモリボックスの設置	×				●	
10.8.1	10.9.1	10.10.1	改変区域外への個体の移設	×			●	
10.8.1			生息域外保全	×			●	
10.9.1			下流水路からの個体の移植	×			●	
10.8.1	10.12		法面の草本緑化<動物、人と自然との触れ合いの活動の場>	×		●		「景観」ではフォトモンタージュ作成において見込んだが、「動物」「人と自然との触れ合いの活動の場」では緑化植物や工法などの詳細が未定であるため、見込んでいない。
10.11			法面の草本緑化<景観>	○	●			
10.8.1	10.9.1	10.10.1	防音堤の本木緑化<動物、植物、生態系>	×		●		「景観」ではフォトモンタージュ作成において見込んだが、「動物」「植物」「生態系」では緑化植物や工法などの詳細が未定であるため、見込んでいない。
10.11			防音堤の本木緑化<景観>	○	●			
10.12			既存施設の整備、活用の推進	×			●	
10.12			類似施設の新設	×			●	

●供用時（その3）

準備書の章番号	環境保全措置の種類	予測への反映の有無	検討経緯					備考
			A1	A2	A3	B1	B3	
			○	△	×	○	×	
10.13.2	一般廃棄物の適正な処理	○	●					一廃処理設備の能力増強により、空港から生じる一廃を全て処理することを想定
10.13.2	舗装改修工事における建設廃材の再資源化	○	●					自社リサイクルプラントの更新により、現在と同等以上の再資源化の実施を想定
10.13.2	空港関連施設における一般廃棄物の分別	△	●					現状の廃棄物発生量には現状の取組効果が加味されている。予測ではそれと同程度の実施を見込んだ。
10.13.2	ペーパーレス化による発生量の抑制及び使用済み用紙のリサイクルの推進	△	●					
10.13.2	航空機からの取り下ろし廃棄物の分類の促進	△	●					
10.13.2	舗装改修工事における建設廃材の発生抑制	△	●					
10.13.2	産業廃棄物（梱包材、木製スキッド）のリサイクルの促進	△	●					
10.13.2	グリーン購入の推進	△	●					
10.13.2	空港利用者に対する意識啓発活動の実施	△	●					
10.13.2	刈草や伐採木等の有効活用の推進	×		●				
10.14.2	次世代航空機燃料導入に向けた取組みの推進	×		●				
10.14.2	再生可能エネルギーの導入促進	△	●				現状の温室効果ガス発生量には現状の取組効果が加味されている。予測ではそれと同程度の実施を見込んだ。	
10.14.2	LED照明の導入	△	●					
10.14.2	誘導路へのLED灯火の導入	△	●					
10.14.2	空調・電力・熱源等の効率運用	△	●					
10.14.2	低炭素電源の選択	△	●					
10.14.2	サーマルリサイクルの実施	△	●					
10.14.2	省エネルギー活動の実施	△	●					
10.14.2	CGSの段階的な更新	×				●		
10.14.2	新築建築物のZEB化の検討	×				●		
10.14.2	既存建築物の省エネ改修	×				●		
10.14.2	空港カーボン認証（Airport Carbon Accreditation）のプログラムの活用	×				●		



建設機械の稼働に伴う二酸化窒素の 1 時間値の予測結果について

工事中の、建設機械の稼働に伴う二酸化窒素の 1 時間値の予測結果は、下表に示すとおりです。  
 なお、予測条件は以下の通りとしました。

【予測条件】(準備書本編 (2/3) p. 10. 2. 1-27~28 参照)

- ・ 風向・・・表に示す 16 方位
- ・ 風速・・・1.0m/s (有風時の予測式が適用される下限値※)

※風速は小さいほど大気質の拡散効果は小さくなる傾向があり、対象事業実施区域周辺で高濃度になる可能性があるため、予測上、より高濃度の地点が出現すると見込まれる条件を設定した。

- ・ 大気安定度・・・昼間 D、夜間 G (拡散効果が弱く、排出源近傍で濃度が高くなると見込まれる条件)。

表(1) 二酸化窒素の予測結果 (建設機械の稼働、1 時間値【昼間】)

予測地点	二酸化窒素																16風向 最大値(①)	現況濃度(②)	予測濃度 (③=①+②)
	寄与濃度																		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16			
	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	N			
T-1	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0187	0.0929	0.0187	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.093	0.005	0.098
T-2	0.0000	0.0024	0.0138	0.0438	0.0477	0.1090	0.0297	0.0099	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.109	0.005	0.114
T-3	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0113	0.1097	0.0120	0.0545	0.0419	0.0281	0.0200	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.110	0.006	0.116
T-4	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0560	0.1837	0.1773	0.0289	0.0002	0.0142	0.0007	0.0061	0.0234	0.0000	0.0000	0.184	0.007	0.191
T-5	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0074	0.0797	0.0920	0.1032	0.1618	0.1116	0.0804	0.0298	0.0000	0.0000	0.162	0.006	0.168
T-6	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0331	0.1033	0.1041	0.1056	0.1165	0.1870	0.1431	0.1217	0.0180	0.0000	0.187	0.006	0.193
T-7	0.1222	0.1093	0.1008	0.0999	0.1207	0.0868	0.0001	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0263	0.0909	0.1379	0.1497	0.150	0.007	0.157
T-8	0.1329	0.1163	0.1024	0.1068	0.1176	0.1117	0.0168	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0001	0.0003	0.0594	0.2025	0.1788	0.203	0.007	0.210
T-9	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0239	0.0727	0.0904	0.0897	0.0920	0.0930	0.1257	0.1842	0.0410	0.0000	0.184	0.006	0.190
T-10	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0017	0.0419	0.0803	0.0909	0.0992	0.1488	0.0166	0.0000	0.149	0.005	0.154
T-11	0.0819	0.0765	0.0726	0.0360	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0177	0.1280	0.1249	0.128	0.006	0.134	
T-12	0.2461	0.1733	0.1040	0.0906	0.0991	0.0636	0.0011	0.0010	0.0009	0.0010	0.0196	0.0902	0.1066	0.1453	0.1608	0.2179	0.246	0.007	0.253
T-26	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0619	0.1648	0.0463	0.0000	0.0089	0.0097	0.0000	0.0140	0.0353	0.0000	0.0000	0.165	0.008	0.173
T-27	0.0568	0.0497	0.0724	0.1065	0.1371	0.0498	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0121	0.137	0.011	0.148	
T-28	0.0001	0.0744	0.1346	0.0587	0.0416	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0088	0.0193	0.135	0.013	0.148
T-29	0.1221	0.0728	0.0616	0.0563	0.0236	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0153	0.0543	0.122	0.010	0.132

※1 は短期暴露指針値0.10~0.20ppm  
 ※2 は短期暴露指針値0.20ppmを超える値  
 ※3 赤字は最大値を示す。

表(2) 二酸化窒素の予測結果 (建設機械の稼働、1 時間値【夜間】)

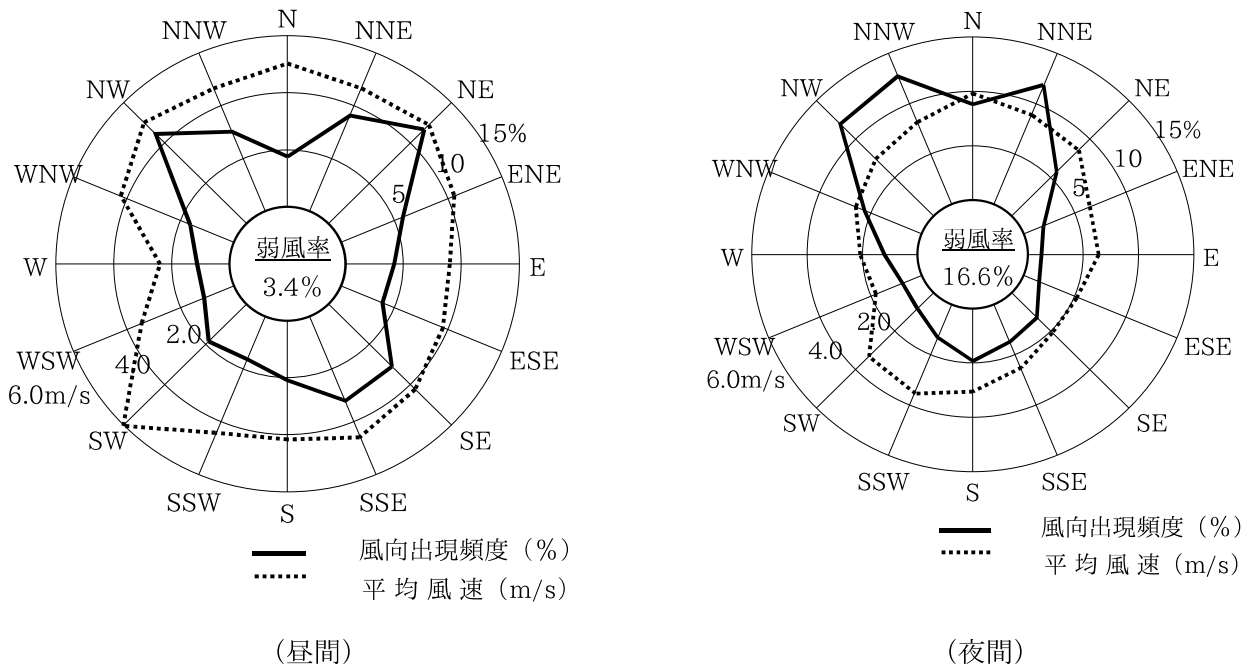
予測地点	二酸化窒素																16風向 最大値(①)	現況濃度(②)	予測濃度 (③=①+②)
	寄与濃度																		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16			
	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	N			
T-1	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0508	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.051	0.005	0.056
T-2	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0005	0.0705	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.071	0.005	0.076
T-3	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0179	0.0745	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.075	0.006	0.081
T-4	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0050	0.0075	0.0000	0.0000	0.008	0.007	0.015
T-5	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0071	0.0000	0.0000	0.007	0.006	0.013
T-6	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0298	0.0000	0.0000	0.030	0.006	0.036
T-7	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0177	0.0000	0.018	0.007	0.025
T-8	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0030	0.0000	0.003	0.007	0.010
T-9	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0028	0.0000	0.0000	0.003	0.006	0.009
T-10	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0048	0.0000	0.0000	0.005	0.005	0.010
T-11	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0073	0.0000	0.0000	0.007	0.006	0.013
T-12	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0330	0.0000	0.0000	0.033	0.007	0.040
T-26	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0312	0.0149	0.0000	0.0000	0.031	0.008	0.039
T-27	0.0545	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.055	0.011	0.066
T-28	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0320	0.032	0.013	0.045
T-29	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0008	0.0001	0.001	0.010	0.011

※ 赤字は最大値を示す。

(参考) 現在の風況

環境影響評価においては、工事の施工時間は、昼間は8時間(8:00~12:00、13:00~17:00)、夜間は約6時間(23:30~翌5:20)を想定しています。

この時間帯の現在の風況について、2016年度の成田観測所における風向風速の測定結果のうち当該時間帯の結果のみを抽出して整理した風配図は、以下の通りです。(準備書本編(2/3)p.10.2.1-26~27参照)。



※弱風率は、風速 1.0m/s 以下の割合を示す。

図 建設機械の稼働時間の風配図(成田観測所、2016年度)